



Newsletter

68

特定非営利活動法人日本顎咬合学会 〒102-0093 東京都千代田区平河町1-8-2 山京半蔵門バレス201 TEL 03-6683-2069 FAX 03-6691-0261

p2 第12回咬合フォーラム
(抄録)
5

p6 認定歯科衛生士・
歯科技工士制度
いよいよスタート!!

p7 平成23年度各支部の
事業計画状況

p8 平成23年度認定医検定試験結果
中華民国顎咬合学会学術大会および
日本顎咬合学会認定医検定試験、
成功裡に開催

観測史上最大のマグニチュード(Mw)9.0を記録した東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)では、未曾有の地震と津波により、1万5707人もの尊い命が失われたばかりでなく、なお行方不明者4642人、負傷者が5717人(8月24日現在)を数えていることに心がさける思いであり、深い哀悼の意を捧げます。今もなお原子力発電所の事故による放射能汚染の不安が続いており一刻も早い収束を願っており、被災された皆様に心からお見舞い申し上げますと同時に、一日も早い安全と復興をお祈りいたします。

今回の東日本大震災では自らが被災したにもかかわらず東北地方の歯科医師を中心に、多くの医療従事者が避難所での口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防に奮闘努力されたことが多数報道されています。心より感謝とねぎらいの言葉をお伝えしたいと思います。

このような災害時以外でも高齢者時代における誤嚥性肺炎を予防するための口腔ケア、摂食嚥下リハビリテーションが必要かつ重要であることが世間でも認識されてきています。当学会では国民の皆さんと共に、『健口長寿』をこれからの本学会のキーワードとして推し進めていきたいと考えています。第29回日本顎咬合学会での公開フォーラムでは嚥むことの向う側に見えるものとして『よくかんで五感を楽しむ食育のススメ』を併催いたしました。講演は4名の方々にお願いしました。佐藤弘氏(西日本新聞社編集局)には豊富な取材経験から、口がQOLの向上と生きる力に密接に結び付いていること、大越ひろ先生(女子大学家政学部食物学科、日本調理科学会副会長)には大震災直後であることを踏まえ、災害時の食事への対応として食べやすく、安全な食事提供をするための調理について、岡崎好秀先生(岡山大学歯学部小児歯科)には子供の時からの食育の重要性について講演いただき、最後に内科医今井一彰先生(みらいクリニック)より口呼吸の弊害、動物本来の鼻呼吸に変えていく「あいうべ体操」をご紹介いただきました。一般の方も含め多くの方に



夢のある未来へ向けて

特定非営利活動法人 日本顎咬合学会
理事長
南 清和

参加していただき、皆さん熱心にメモを取られる姿が印象に残りました。

第29回日本顎咬合学会学術大会では大震災後の開催があやぶまれた中、実に3,700名を超える参加者のもと盛会のうちに終了することができました。これもプログラムチェアマン夏見良宏先生を筆頭に役員の方々、賛助会員企業のご協力の賜と思います。心より感謝申し上げます。

平成23年支部認定医教育研修会では9月4日の関東甲信越支部での開催を皮切りに、『命の入り口、心の出口』をテーマに河原英雄先生(大分県開業)、増田純一先生(佐賀県開業)の両先生により全国6支部で開催される予定となっています。

また第30回記念学術大会では6月10日(日)の午後、東京国際フォーラムCホール(1,500名収容)にて『健口長寿』をテーマとした公開フォーラムを予定しています。この公開フォーラムは先日発刊した「咬み合わせの科学」学会誌上でもお知らせしていますが、今年度よりスタートする認定歯科衛生士、認定歯科技工士取得のための認定研修1といたします。認定歯科衛生士、認定歯科技工士制度の概要に関しては、第30回記念学術大会の案内と共に告知させていただきます。

第12回咬合フォーラム in 札幌「臨床に求められるアンテリアガイダンスとは」というテーマで来る10

月2日(日)、北海道大学学術交流館にて開催いたします。フォーラム開催委員長は副理事長、学術委員長である上田秀朗先生、実行委員長に北海道支部長中村順三先生に企画していただきました。講師として当学会会員・普光江 洋先生(高知県開業)・添島正和先生(熊本県開業)・大村祐進先生(山口県開業)を迎え、北海道大学大畑 昇教授に座長をお願いいたしました。今回のテーマ「アンテリアガイダンス」は補綴修復における永遠のテーマとされています。3名の講師の先生方の臨床経験を踏まえたお話に今からワクワクドキドキ待ち遠しく思っております。全国の会員の皆様の参加を心からお待ちしております。

第30回日本顎咬合学会学術大会(平成24年6月9・10日、東京国際フォーラム)は、30周年記念大会です。テーマを『夢のある未来に向けてー日本顎咬合学会30年からの飛躍ー』として開催いたします。また本大会では、非会員の歯科医師の方も参加できるオープン参加形式といたします。特別講演として米国より補綴臨床医で著名なFrank Spear先生が来日されることが決定し、現在副理事長・プログラム委員長の加々美恵一先生のもと素晴らしい企画を立て準備しております。皆様楽しみにご期待下さい。

特定非営利活動法人 日本顎咬合学会

第12回

咬合フォーラム in 札幌

テーマ

臨床に求められるアンテリアガイダンスとは

日時

2011年 10月 2日(日)
10:00~16:30

会場

北海道大学学術交流会館

札幌市北区北8条西5丁目 Tel.011-706-2141



第12回 咬合フォーラム
実行委員長

中村 順三

明日の臨床のために— アンテリアガイダンスを もういちど

日本顎咬合学会第12回咬合フォーラムが北の大地、札幌で開催されることになりました。

ご承知のように、下顎運動は後方にある左右の顎関節と前方にある上下顎歯牙との接触滑走によってガイドされています。アンテリアガイダンス（前方指導要素）とは、正しい顎間関係を保って両側顎路とともに機能運動や偏心位をガイドするための前方決定要素として、上顎前歯舌面と下顎前歯切端との接触が、下顎運動方向を決定する指導的作用をすることに対して命名された用語であります。

Peter E. Dawson は、「アンテリアガイダンスは、中心位の次に咬合を再構成する際の最も重要な要素であり、多くの咬合治療における成否は、アンテリアガイダンスの正確さに依存する。正しいアンテリアガイダンスを確立すると、個々の機能形態に調和し、患者満足度を非常に高めることができる。アンテリアガイダンスは中心位の次に咬合を再構成する際の最も重要な要素であり、臼歯部の咬合治療の基本的な目標である。」と言っています。

アンテリアガイダンスは、ポステリアガイダンス（後方指導要素）とともに、下顎の運動路に影響を及ぼし、臼歯部の咬合面形態、咬頭傾斜面、歯の接触状態にも影響を及ぼします。アンテリアガイダンスは、臼歯部の咬合安定のために臨床的には、顎路よりも重要な役割を担っています。アンテリアガイダンスがないと、下顎の前方運動や側方運動において臼歯は咬頭干渉を起こします。アンテリアガイダンスを付与することにより、前歯がガイドをして下顎頭の前下移動によって補償してくれます。

そこで今フォーラムでは、3人のベテランの先生方からアンテリアガイダンスについて、咬合様式との関係、Longevity 達成への Key ポイント、咬合再構成における考え方についてお話していただきます。きっと、明日への臨床にお役に立つものと確信しております。

会場の北海道大学は、明治初期に設立された札幌農学校（北海道大学の前身）の初代教頭のクラーク博士が「少年よ大志を抱け」と情熱的な言葉を発したキャンパスであります。この北の大地札幌から、大志を抱けるよう全国へ発信していきたいと思ひます。

なお、本学会開催に当たり、準備と運営にご協力いただきました日本顎咬合学会本部役員、事務局、学術委員会、北海道支部の皆様、そして全国各地からお忙しいなかをお集まりくださいました皆様に、心からお礼申し上げご挨拶に代えさせていただきます。

プログラム 10月2日(日)

10:00 ~ 10:05 〈開会挨拶〉 南 清和 理事長

10:05 ~ 10:10 〈実行委員長挨拶〉 中村 順三 先生

10:10 ~ 11:40 **講演 I****咬合様式とアンテリアガイダンスとの関係**

高知県 開業

普光江 洋先生

前歯は咬合を構成する歯群の中で、噛むこと以外の要素が強い特別なエリアとして考える必要がある。咬合論的には、臼歯離開のためのオクルーザル・ガイダンスとして取り上げられることが多いが、発音や審美といった人間ならではのコミュニケーションの役割を担った臓器と考えると、咬合機能と同等に見た目の評価もなされなければならない。そういった意味で、咬合様式とアンテリアガイダンスの関係は切り離して扱うことができない問題である。

正常なⅠ級咬合では下顎中切歯切縁は、上顎中切歯舌面の基底結節部に咬み込み、その位置から切縁までは日本人の場合、約3.5ミリである。こうした関係は、側方運動時の誘導路として働く犬歯も同様で、下顎犬歯の尖頭は上顎犬歯の近心と側切歯の隣接面部の緩斜面に位置し、切縁までの距離と傾斜を使って臼歯を離開させることで、歯と歯周組織の健康を維持している。

しかし、こうした咬合関係が全ての患者さんに当てはまるとは限らない。日本人の骨格様式を統計的に見ると、Ⅰ級は53%しかなく、約半数はⅡ級(40%)とⅢ級となっているので、それぞれの咬合様式に対応したアンテリアガイダンスが必要となってくる。さらに前方、左右側方向に対する誘導路の役割以外に重要となるのが、睡眠時のパラ・ファンクションに対する後方運動の考え方である。近年、咬合崩壊の大きな要因として無視できない問題であるが、現実問題として補綴的に解決することはきわめて難しく、高度な技術と後方ベネット路を有する咬合器がなくては後方ガイダンス(リツルーシブ・ガイド)を補綴物に付与することは不可能である。また、下顎を動かす筋の中で下顎を前方に動かす外側翼突筋の下頭と、下顎を開口する舌骨上筋群、ならびに舌骨下筋群以外のほとんどの筋は強靱な閉口筋であり、睡眠時のパラ・ファンクション出現時にはこれらの閉口筋が外側翼突筋と共に、覚醒時の限界運動を逸脱した動き(ブラキシズム)を行うことから、最も閉口筋の影響を受けにくい前方歯で、かつ後方誘導路を与えることのできる形態を有した歯、具体的には上顎・第一小臼歯の舌側咬頭近心斜面にリツルーシブ・ガイダンスを付与することが有効と考えられている。

今回は、これまでのアンテリアガイダンスの概念に加え、咬合様式とパラ・ファンクションへの対応を含めた考え方を明示できればと考えている。

12:40 ~ 14:10

講演Ⅱ

アンテリアガイダンスの良否が Longevity達成の鍵を握る



熊本県 開業

添島 正和先生

歯科医師と患者さん双方が目指す歯科治療の究極のゴールは、機能・審美性を兼ね備えた健康な口腔を生涯にわたって維持し、それが結果的に患者さんの健康長寿に寄与することであると常々私は考えている。

しかしながら、治療終了後の経過観察を行っていくなかで、予測できないトラブルや変化に遭遇し、自分が思い描いていた理想とする治療ゴールとはほど遠い結果を数多く経験してきた。一方、なかには術後20年以上、一度の来院もないまま良好な予後をもたらしている症例があることも事実である。いったいその差は患者さんの個体差によるものなのか？ それとも術者のスキルによるものであろうか？ その鍵を握るのがアンテリアガイダンスである。

ちなみに、今年6月に東京国際フォーラムで開催された「第29回日本顎咬合学会」において、メインスピーカーであるジョン・コイス先生は講演の中で、長期的に良好な予後のためには咬合の安定が不可欠であり、その重要性を強調されていた。

また、長期的な咬合の安定を得る要件としては

- 1) 適切な下顎位（垂直咬合高径・水平的な位置・中心位）
- 2) アンテリアガイダンスの確立
- 3) パーティカルストップの確立
- 4) 顎関節・神経・筋機構に調和した円滑な下顎運動

などが挙げられるが、アンテリアガイダンスは下顎の機能運動時に上顎前歯部と下顎前歯部との接触が下顎の運動方向を決定する指導的作用のことで、切歯誘導と犬歯誘導の両方を指すと定義づけられている。

さらに長期的な咬合の安定のためには、前歯・臼歯がお互いの役割を十分に果たすことが不可欠で、有歯顎におけるアンテリアガイダンスの役割は顎関節・神経・筋機構・歯・歯周組織への負荷からの開放にあると言及されている。

しかし、アンテリアガイダンスに影響を与える因子としては、前歯部叢生の有無、上顎前歯部の歯冠長と舌面形態、Over bite, Over jet の量、上顎中切歯のポジション、良好な歯列弓の調和、犬歯の1級関係などが考えられるが、包括的な処置を行ううえで筋活動や顎関節への負荷を考慮すると、犬歯の1級関係の確立と、犬歯誘導の咬合様式を付与することが予後を良好なものにすると思われる。

アンテリアガイダンスが欠如したオープンバイトや、上下顎歯列弓の不調和であるClass II division1・2症例は難症例であり、予後に不安が残る。そのため、術前の診査・診断を詳細に行い、適切なアンテリアガイダンスを決定すると、長期的に良好な予後が約束されることにつながるの、自身の過去の症例を検証し、維持・安定している理由を解明していくことが今後の臨床に求められるのではなかろうか。

本日は、私が過去に経験したさまざまな症例を提示し、アンテリアガイダンスの重要性について私見を述べさせていただきます。会員の先生方のご意見・ご批判をいただければ幸いです。

14:30 ~ 16:00

講演Ⅲ

咬合再構成におけるアンテリアガイダンスの考え方



山口県 開業

大村 祐進先生

補綴的咬合再構成をおこなう場合に、広く用いられている咬合様式のひとつにミューチュアリー・プロテクテッド・オクルージョンがある。咬頭嵌合位では臼歯が前歯を保護し、前方運動では切歯が犬歯と臼歯を保護し、さらに側方運動では犬歯が切歯と臼歯を保護するような咬合である。このような咬合を付与する際に、アンテリアガイダンスは、ある程度自由に設定することができるが、適切なガイドを作らなければならないむずかしさがある。

限界運動において、下顎の偏心運動時に発生する水平圧は、歯牙にストレスを加えるために有害視されている。当然、犬歯においても水平圧は有害となる。しかしながら、犬歯は感圧能力が高いことに加え、非常に緻密な歯槽骨壁によって囲まれているとともに、歯根が歯槽骨に深く植立して歯冠歯根比率が良好であることが多く、さらに、顎関節および咀嚼筋との関係が第3種の梃子をなしているため、水平圧の影響をうけにくいものとされている。これらのことは犬歯が側方運動の際のガイドとなりうることの根拠となっている。反面、臼歯においては水平圧が非常に大きなストレスとなる。このことが臼歯離開が必要とされる所以である。臼歯離開の程度は、切歯路角、顎路角、咬頭傾斜角、咬合平面の傾斜角、そして前後的彎曲と側方彎曲に影響をうけ、切歯路角、顎路角が大きくなると離開量が増し、他が大きくなると離開量は減少する。臼歯離開は、どのくらいの量が適当かについては明確にされていないが、咬頭干渉を引き起こすことのないように、ある程度の離開量が必要であろう。

一方、咀嚼運動は、前頭面から観察すると、開口時に咬頭嵌合位から作業側に向かって外下方へ下降し、閉口時にはその外側を通して上昇し、食物を粉碎しながら再び咬頭嵌合位にもどる。矢状面における作業側の観察では、開口時に咬頭嵌合位から下方へ下降し、閉口時にはその後方を通して上昇し、食物を粉碎しながら再び咬頭嵌合位にもどる。咀嚼運動の軌跡は、咬筋、内側翼突筋などの咀嚼筋の方向、臼歯の解剖学的形態および顎骨に対する植立方向に一致している。したがって、補綴物が食物を効率的に粉碎するためには、前後的彎曲と側方彎曲を与える必要があると思われるが、これらは臼歯離開の量を減少させる一因となる。

咬合再構成をおこなう際には、顎路角、咬頭傾斜角、咬合平面の傾斜角、そして前後的彎曲と側方彎曲に調和するように、アンテリアガイダンスを設定することが重要である。今回の講演では、理論と実際の方法について、臨床症例を交えながら説明したい。

16:00 ~ 16:30 〈ディスカッション〉

お知らせ

日本顎咬合学会 認定歯科衛生士・歯科技工士制度 いよいよスタート!!

近年の歯科口腔医療をめぐる環境は、旧来の歯や歯周組織を対象とするものからさらに複雑化・多様化してきており、この現実に対応するためチーム医療が求められています。真のチーム医療を行うためには、歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士が同じレベルの知識を共有することが大切です。

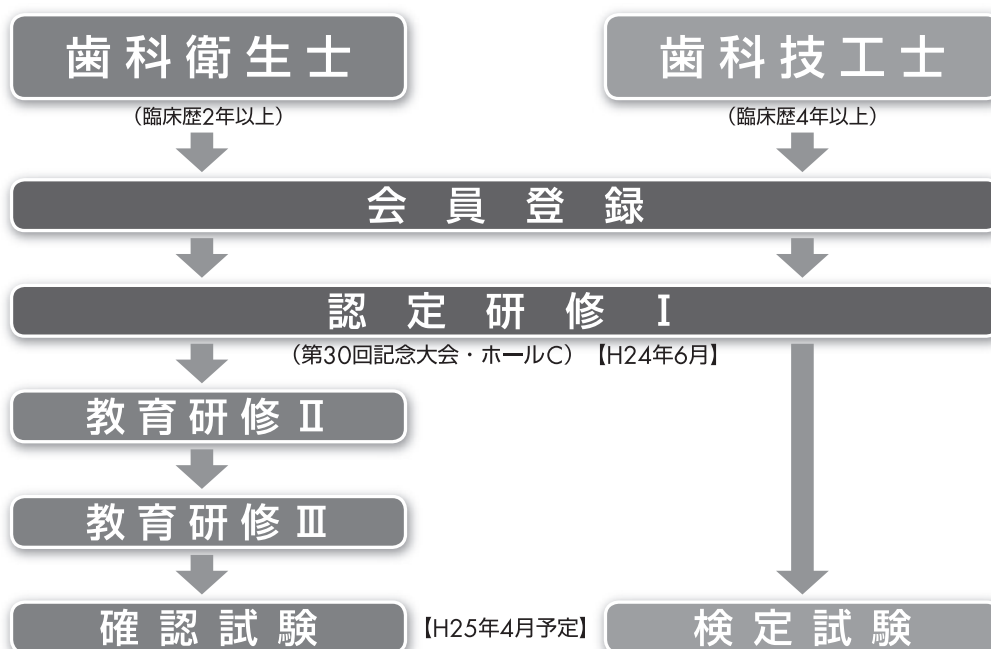
本学会の主たるテーマである顎咬合学とは、顎口腔系における解剖・組織・病理などの基礎学問に基づき、診査、診断、治療計画を基盤とする咬合による咀嚼機能の回復とその維持を図るためのものです。これらの知識を共有し、臨床に反映することが国民の健康の維持増進に寄与するものと考えます。

また、乳幼児から高齢者までの各ステージにおける口腔機能や疾病構造の変化や特性に応じて、適切かつ効果的に治療や予防による歯科口腔保健を推進することも歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士の大切な役割です。これらの臨床理念に基づき乳幼児から高齢者まで、歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士の三位一体による予防・治療・管理を一貫した流れで推進できるのは、当学会の最大の特徴といえるでしょう。

国民が健康で質の高い生活を営むことに寄与するために、口腔の健康すなわち「健口長寿」を目標に、会員全員で知識・手技・態度の研鑽に努める制度として、認定歯科医師とともに認定歯科衛生士、認定歯科技工士制度を立ち上げることにになりましたのでお知らせいたします。認定歯科衛生士・認定歯科技工士の資格を取得され、国民から「信頼され、尊敬されるワンランク上の歯科医療従事者」を目指して頑張りましょう（下図をご参照ください）。

詳細に関しましては、学会からの御案内（学会HP、支部教育研修会など）でお知らせいたします。

日本顎咬合学会：認定歯科衛生士・認定歯科技工士



平成 23 年度 各支部の事業計画状況

(自 平成 23 年 4 月 1 日～至 平成 24 年 3 月 31 日)

支部名	区 分	開催日	会 場	内容・講師等
北海道	認定研修会	23年10月30日(日)	北海道大学歯学部講堂	テーマ「命の入り口 心の出口」 河原 英雄 先生 (大分県開業) 増田 純一 先生 (佐賀県開業)
	学 術 大 会	24年 3 月 4 日(日)	札幌国際ビル 8 F 国際ホール	未 定
東 北	認定研修会	24年 3 月31日(土)	山形県歯科医師会館	テーマ「命の入り口 心の出口」 河原 英雄 先生 (大分県開業) 増田 純一 先生 (佐賀県開業)
	学 術 大 会	24年 4 月 1 日(日)	山形グランドホテル	テーマ「山形デンチャーシンポジウム」 講師：阿部 二郎 先生 亀田 行雄 先生 佐藤 勝史 先生 小久保 京子 先生
関 東 甲信越	認定研修会	23年 9 月 4 日(日)	日本青年館 中ホール	テーマ「命の入り口 心の出口」 河原 英雄 先生 (大分県開業) 増田 純一 先生 (佐賀県開業)
中 部	認定研修会	23年11月26日(土)	名古屋国際会議場	テーマ「命の入り口 心の出口」 河原 英雄 先生 (大分県開業) 増田 純一 先生 (佐賀県開業)
	学 術 大 会	23年11月27日(日)	名古屋国際会議場	基調講演：北島 一 先生 (静岡県開業) テーマ「歯周病の再生治療」
近 畿 中 国 四 国	認定研修会	24年 2 月26日(日)	大阪国際交流 センター	テーマ「命の入り口 心の出口」 河原 英雄 先生 (大分県開業) 増田 純一 先生 (佐賀県開業)
	学 術 大 会	23年11月13日(日)	大阪国際交流 センター	テーマ 未定 特別講演：高橋 英登 先生
九 州 沖 縄	認定研修会	23年10月16日(日)	福岡県歯科医師会館 大ホール	テーマ「命の入り口 心の出口」 河原 英雄 先生 (大分県開業) 増田 純一 先生 (佐賀県開業)
	支 部 主 催 認定研修会	未 定	沖縄県で開催	未 定
	学 術 大 会	未 定	福岡県歯科医師会館 大ホール	会員発表

ホームページ <http://www.ago.ac/>

ホームページは学会の最新情報を掲載しております。

必ず皆様のお役に立つと思います。

お気に入り、ブックマークに追加してください。

会員の先生方のご意見をお待ちしております。



平成 23 年度 認定医検定試験結果

実施日時 平成 23 年 6 月 10 日 (金) 18:00 ~ 19:00

実施場所 東京国際フォーラム G 棟 5・6 階

受験者数 214 名

今年も翌日に学術大会を控えた 6 月 10 日 (金) に本学会認定医検定試験が実施されました。その後、6 月 30 日 (木) の認定審議会と認定審議運営委員会の合同委員会において厳正な採点が行われ、その結果は 7 月 27 日 (水) 開催の常任理事会で審議され、合格者 192 名が今年度の新たな認定医として承認されました。

下記の 2 名の先生方は 100 点満点の成績でした。新たに認定医となられた先生方のご健闘を讃えとともに、今後のご活躍を期待しております。
(認定審議会委員長 平井 順)

[100 点満点合格者] (五十音順、敬称略) 市川 正人 (福井県) 木村 浩幸 (熊本県)

中華民国顎咬合学会学術大会 および 日本顎咬合学会認定医検定試験 成功裡に開催

中華民国顎咬合学会の会員大会および国際学術研討會が、2011 年 8 月 14 日、台北の福華國際文教會館にて開催され、日本顎咬合学会からは、河原英雄元理事長、平井順認定審議会委員長、河津 寛監事、そして俵木 勉の 4 名が出席しました。まず 8 月 13 日の午後、日本顎咬合学会の認定医のためのケースプレゼンテーションによる試験が行われ、20 名の台湾の歯科医師が参加しました。平井認定審議会委員長が講評時に「どの先生のケースともすばらしく……」と述べられたとおり、日本人歯科医師として大いなる刺激と感銘を受けました。後で、中華民国顎咬合学会理事長である林佳明先生から「今回参加して下さった先生方は、近い将来、台湾の歯科界を引っばっていく人ばかりですよ。」とうかがい、納得しました。

14 日は午前 9 時開始、まずは、河原英雄先生が「高齢者の醫療照護」という演題で御講演されました。通訳には河原三明先生があたられ、いつもの気合のはいった、そして所々笑いがあり、最後には感動させてしまうという、河原英雄ワールド台湾上陸という感じで出席者を魅了しました。午後は 6 人の中華民国顎咬合学会会員の先生方がインプラント、歯周治療、矯正、補綴の各領域のテーマで発表され、本学会学術大会で発表をお願いしたい立派な臨床を見せていただきました。また、中華民国顎咬合学会の創立メンバーで元理事長の王敦正先生、林崇民先生もお顔をみ



特別講演中の河原英雄先生



認定医検定のケースプレゼン風景
(左より河原先生、河津先生 (手前) 1 人おいて筆者、平井先生、受験者)

せられており、ピリッとした緊張感を持ちながら進行されました。夜にはアンバサダーホテルで晩餐会が開かれ、約 40 名の先生方と歓談しました。ちなみに、私は出席したすべての先生と乾杯することができ、予想通りの結果となり、楽しい時間をすごさせていただきました。台湾の先生方は、語学が苦手な私のためにかわるがわる通訳としてついて下さり、そのフレンドリーな対応には心から感謝したいと思います。来年の日本顎咬合学会第 30 回学術大会には、皆様出席して下さるとのお話をいただきました。再会が楽しみです。

(俵木 勉・記)



検定試験後、受験者と



アンバサダーホテルでの歓迎レセプション